

# 先生おしえて!!!

vol.012

## 婦人科腹腔鏡手術



産婦人科 松浦 俊明  
まつうら としあき

腹腔鏡手術とは、お腹の中でカメラを使って行う手術のことで、身体に大きな切開を加えることのない「低侵襲」で「身体にやさしい」手術です。開腹手術と比較してのメリットは①術後の痛みが少ない②入院期間が短く社会復帰が早い③術創が目立たず美容的に優れる④術後癒着が起りにくい等が挙げられます。

近年の腹腔鏡手術手技の進歩と手術器具の発達に伴い、婦人科領域においてもその普及はめざましく、今や婦人科良性疾患のほとんどに腹腔鏡手術が適用可能といつても過言ではありません。当科においても症例数は飛躍的に増加しており、2009年度は年間332例の腹腔鏡手術を行いました(図1)。

### ◆腹腔鏡手術とは?

当科では、まず臍底を小切開し10mm径のトロッカーか

へといった逆の動きをしなければなりません。従って腹腔鏡手術を安全に遂行するために、医師は十分なトレーニングを必要とします。

婦人科腹腔鏡手術の主な適応疾患は不妊症、子宮外妊娠、良性卵巣腫瘍、子宮内膜症、子宮筋腫などであり、当科では腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)や腹腔鏡下子宮筋腫核出術(TLM)などのやや高度の技術を要する腹腔鏡手術も数多く行っています。

### ◆単孔式腹腔鏡手術(SILS)ってご存知ですか?

最近、従来の腹腔鏡手術に比べさらに術創(手術のキズ)が目立たない「単孔式腹腔鏡手術(SILS: Single incision laparoscopic surgery)」が注目を集めています。これは臍部を2・5cm縦切開し、そこから全ての手術器具やスコープ(カメラ)を挿入して行う腹腔鏡手術です。術創は臍1ヶ所であり、臍は「生まれながらに持っている傷あと」ですから、手術のキズはほとんど目立たず、特に女性には嬉しい手術です。

当科では、この単孔式腹腔鏡手術を2009年10月より導入し、これまでに23例施行しました(子宮外妊娠手術、卵巣腫瘍摘出術、付属器切除術、子宮筋腫核出術など)。やはり美容面で非常に優れており、術後し

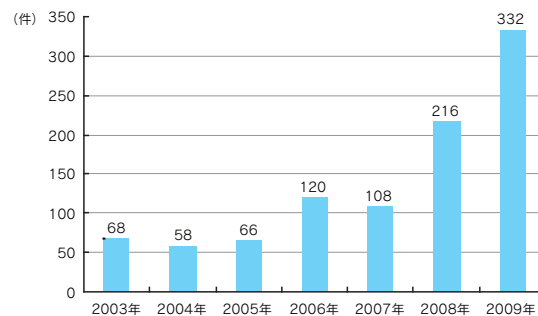


図1 当科における腹腔鏡手術件数



図2 SILS後約3週間。手術のキズはお臍だけです。

ばらく経つとどこから手術をしたのか分からない程度(図2)、患者さんには非常に喜ばれています。手術時間が長くなる、技術的に困難である等の問題点も指摘されていますが、トレーニングを積み熟練すれば従来法と変わらず安全に施行可能であり、患者さんの満足度も非常に高い手術と言えます。手術手技や器具の開発などによりさらに普及していくことが期待され、当科でも今後さらに積極的に行っていく予定です。「単孔式」が気になる方は、お気軽にご相談ください。

らスコープ(カメラ)を挿入し、腹腔内に手術スペースを確保するための気腹(炭酸ガスでお腹を膨らませる)を行います。そして下腹部に2〜3本の5mm径トロッカーを挿入して、そこから鉗子などの手術器具を挿入し、テレビモニターに映し出された術野を見ながら手術を行います。

「低侵襲」「身体にやさしい」ということはから簡単な手術を連想しがちですが、実は開腹手術よりも困難な手術です。なぜならテレビモニターの画面は2次元(平面的)であるため奥行き感覚が消失します。また鉗子は腹壁を支点にしたテコのような動きをするため、鉗子の先を上にかかした時は実際の手は下へ、右なら左

